

第26週の発生動向(2007/6/25~2007/7/1)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. 水痘については、むつ保健所管内において新たに、**注意報**が出されました。
3. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内において新たに、**警報**が出されました。
4. インフルエンザについては、沈静化傾向にあります。型別については、迅速診断キットにより、弘前保健所管内でA型:6人、B型:1人が報告されています。

第26週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	小児科	内科	眼科
(100) インフルエンザ	7	0.50	7	0.47						1	0.11			15	0.23				7	0.58				
(72) RSウイルス感染症															-1									
(73) 咽頭結膜熱	7	0.78	4	0.44	4	0.44			13	2.17	7	1.75	35	0.83	-19				7	0.88				
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.67	8	0.89	5	0.56	8	1.60	9	1.50	2	0.50	38	0.90	-8				6	0.75				
(75) 感染性胃腸炎	19	2.11	7	0.78	6	0.67	10	2.00	4	0.67	10	2.50	56	1.33	-24	2	2.00	17	2.13					
(76) 水痘	2	0.22	5	0.56	3	0.33	5	1.00	12	2.00	17	4.25	44	1.05	-1				2	0.25				
(77) 手足口病	2	0.22	3	0.33									5	0.12	-6	1	1.00	1	0.13					
(78) 伝染性紅斑	1	0.11	2	0.22	1	0.11	1	0.20	2	0.33	4	1.00	11	0.26	-5				1	0.13				
(79) 突発性発疹	1	0.11	6	0.67	3	0.33	2	0.40	5	0.83	4	1.00	21	0.50	-1				1	0.13				
(80) 百日咳					1	0.11							1	0.02	1									
(81) 風しん															0									
(82) ヘルパンギーナ	24	2.67	62	6.89	2	0.22					6	1.50	94	2.24	43				24	3.00				
(83) 麻しん(成人を除く)															0									
(84) 流行性耳下腺炎	15	1.67	3	0.33	18	2.00	1	0.20	2	0.33	1	0.25	40	0.95	4				15	1.88				
(86) 急性出血性結膜炎															0									
(87) 流行性角結膜炎							1	1.00	1	0.50			2	0.18	-3									
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					2	2.00	5	0.83	-2									
東地方																			2	1	1	0	0	
弘前																			15	9	6	3	1	
八戸																			14	9	5	2	1	
五所川原																			7	5	2	1	1	
上十三																			9	6	3	2	1	
むつ																			6	4	2	1	1	
青森市																			12	8	4	2	1	
合計																			65	42	23	11	6	

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む) 報告数は速報値です。

(83) 成人麻しん(五類基幹定点把握疾患) 青森市保健所:1人 (19年計:3人)

感染症の窓

ヘルパンギーナ

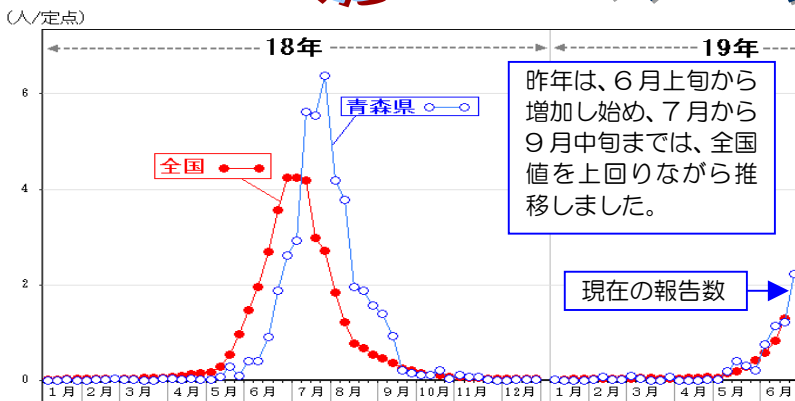


図1 過去2年間の全国と青森県における発生状況

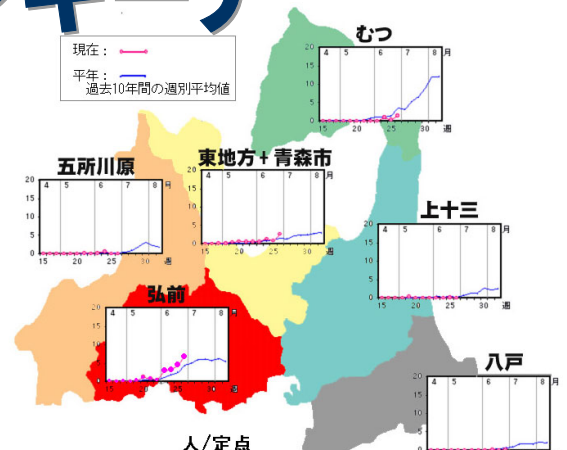


図2 青森県内の保健所管内別発生状況

ヘルパンギーナは、夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で(図1)夏かぜとも呼ばれています。県内では、弘前保健所管内において、増加傾向にあります(図2)。症状は、高熱(38~40)が数日間続き、その後、口の中に水泡ができます。水泡が破れると潰瘍となり、食事をするとときに痛みを伴い、拒食、食欲不振になることもあります。急性期には、咽頭からウイルスが最も排泄され、回復期には糞便にもウイルスが排泄されることがあるため、感染予防は、**感染者との接触を避け、うがいや手洗いを励行**することです。